

図書館を制すれば卒論を制す !?

教育学研究科 教科教育専攻 三浦 教子

♪ あなたは もう 忘れたかしら ♪

背中は寒いこたつ、結露で曇った窓、これでもかというくらい散らかった部屋。何が悲しゅうてこんな・・・とワープロを打ちながらこの歌を歌っていました。四回生の冬は寒い。

早い人は三回生のうちから取り組んでいるようですが、私は書きたいものがなかなか見つからず、四回生になってやっと最終的な題目が決まりました。早ければ早いほどいいというわけではありませんが、遅いとろくでもないことになります。論文の出来にもかかわるし、タイトなスケジュールで泣く羽目になるし、何より資料の収集が困難になります。

私の場合、資料はほとんど大学の附属図書館で揃えました。まず、扱う本の参考文献やキーワードをもとに端末で検索をしていきます。

いわゆる目録検索というヤツですね。これで図書館内の本や起用は網羅できます。もし欲しいものがない場合は（往々にしてあります）図書館を通じて取り寄せることができます。

文献複写の申し込みをすると、1～2週間で届きます。料金がかかりますがそんなに高くはありません。これは特に時間に余裕をもって申し込みましょう。

もっと沢山の資料が必要な人には、WWWサーバ検索やCD-ROM検索がおすすめです。学術情報センターや国立国会図書館などの文献検索ができます。インターネットエクスプローラのリンクで調べますが、これは本当に便利です。私は図書館のシステムが変わった時に四回生だったので、この辺の難しそうなものはいじりませんでした。壊すとマズイな・・・と思って。院生になって初めて存在を知り、使ってみると、

おおなんと。全国の大学図書館にも通じているし、とにかくお利口さんなのです。CD-ROMには国歌大観や判例体系が入っています。これらを活用しない手はありません。

ただし、最初からさらさらっとキーを打ってスルスルッと情報が取り出せるわけではありません。壊れることはなさそうですが、ほしい情報を不足なく手に入れるには手間がかかります。キーの打ち方一つにしても慣れるまでは大変です。四回生になると時間的にも精神的にも余裕がなくなるので、早いうちから慣れておくとういと思います。

何だか図書館の宣伝みたいになってしまいましたが、卒論に図書館の存在は不可欠です。上手に利用して、納得のいく卒論を書いて下さいね。

(みうら のりこ)

